

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第八主日礼拝 2020年7月26日

前奏：

招きのことば：詩編 119：101-105

どのような悪の道にも足を踏み入れません。御言葉を守らせてください。
あなたの裁きから離れません。あなたがわたしを教えてくださいからです。
あなたの仰せを味わえば わたしの口に蜜よりも甘いことでしょう。
あなたの命令から英知を得たわたしは どのような偽りの道をも憎みます。
あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたはイエス様によって天の御国を与えてくださいます。生まれながらの私たちはあなたの御心にそむき、あなたの裁きをうけて当然のようですが、そんな私たちを見捨てず、むしろ独り子イエス・キリストをお与えになるほど愛して下さり、私たちが罪赦されて、新しいあなたの子どもとしての生涯を歩むように導いてくださいました。私にはそんな資格も価値もありません。それにもかかわらず聖書のみ言葉によって、神様は今日も私たちに確信を与えて、絶望せずに歩むことを得させてくださいます。心から感謝をいたします。今日から始まる新しい一週間を、イエス様のお与えくださる安らぎと、勢いをもって始めます。神様と交わり、人々を大切にするすばらしい一週間にしてください。あらゆる危険やわざわいから私たちをお守りください。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ8章26-39節

同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくさるからです。人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくさるからです。神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。だれがわたしたちを罪に定めることができますでしょう。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくさるのです。だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますでしょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。「わたしたちは、あなたのために一日中死にさらされ、屠られる羊のように見られている」と書いてあるとおりです。

しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

福音書朗読：マタイによる福音書 13章 31-33, 44-52 節

イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」

また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠の一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。

また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にある悪い者どもをより分け、燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。」

「あなたがたは、これらのことがみな分かったか。」弟子たちは、「分かりました」と言った。そこで、イエスは言われた。「だから、天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている。」

讚美歌 294 番

- 1 みめぐみゆたけき 主の手にひかれて、この世の旅路を あゆむぞうれしき。
 <繰り返し>たえなる恵みを 日に日に受けつつ、みあとをゆくこそ こよなきさちなれ。
- 2 さびしき野べにも にぎわう里にも、主ともにいまして われをぞみちびく。
 <繰り返し>
- 3 けわしき山路も、 おぐらき谷間も 主の手にすがりて やすく過ぎまし。
 <繰り返し>
- 4 世の旅はてなば 死のかわなみをも、恐れず越えゆかん、 みたすけたのみて。
 <繰り返し> アーメン

説教：「天の国のことをまなんだ学者」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

マタイによる福音書 13 章から、イエス様の天の御国のたとえが今日も開かれました。31 節から天の国は、からし種に似ている。天の国はパン種に似ている。そして 44 節に移って、天の国は宝を手に入れた人、真珠を手に入れた人、良い魚、悪い魚をわける漁師たちのようだ、と語られます。そして、天の国のことを学んだ学者である弟子たちは自分の蔵から新しいものと古いものをとりだす一家の主人のようだ、と結ばれています。

私たちは毎週、主の祈りのなかで、「御国を来たらせたまえ」と祈っています。御国とはここでいう天の国のことですね。どんな御国を来たらせてください、と祈っているのでしょうか。

天の国はからし種に似ている、とイエス様はお話になりました。からしは夏のはじめに黄色の花を咲かせます。秋には実を結びます。そして直径で 1 mm くらいの小さな種を大量に残すといえます。天の国はその小さなからし種に似ている、とイエス様は言われました。天の国は途轍もないいのちの力をもっています。その種は成長して 2 メートルを超える大きな木に育ちます。神の御国は大きく成長するのです。

イエス様を信じる信仰の種は、その種自身の生命力で成長します。あなたの心にまかれたイエス・キリストを信じる信仰は、イエス・キリストご自身がお持ちになっている愛と真実によって、あなたの心を満たし、また、あなたを導いて、多くの実をむすびます。4 つの種のたとえでもイエス様がお話くださったように、種にちからがあります。種にいのちがあります。イエス様を信じると、イエス様のいのちによってあなたが豊かな実を結ばせていただき、からしの木に鳥が巣を作るように、イエス様のいのちがあなたを通して多くの人を養うこととなります。すばらしいですね。イエス様を信じ、罪の赦しをいただき、新しい神の子としてのいのちをいただくことは小さなことに見えるかもしれませんが、しかし、この一週間、あなたを支え、あなたを導き、あなたを通して多くの人に神様の祝福の実を結ぶこととなります。人々が赦しあって和解するように、人々の間に神様の正しさが実現するように、人々の寂しさやむなしさを豊かさや生きがいに変えていく実を結びます。

天の国はまた、「パン種」の似ているとイエス様は続いて語られました。パン種とは、イーストのことです。ご存じでしょうか。パンの酵母ですね。練り粉を取っておくと発酵して、それをまぜてパンを焼くととても柔らかいパンにふくれて仕上がります。イエス様がおっしゃった三サトンの粉とは、40 リットルくらいの小麦粉のことでしょう。これをパン種を混ぜて焼くと、たくさんの人に食べてもらうおいしい大量のパンができます。

イエス様の福音はあなたの心を作り変えて、あなたの生き方を愛と真実の、あたたかくすっきりした生き方に変えます。パン種が発酵するのです。そして、イエス様の福音に促されてあなたが今週歩んでいくと、お仕事にも、勉強にも、家事にも、休んでいるときも、人とお話しているときにも、その毎日をパン種がある福音が内側から豊かなものにしていただきます。神様はあなたの心をまずあたたかくすっきりした心に変えていただきます。そして、あなたの思いと言葉と行いを通して、あなたと接する方々の心と思いをよいものに変えていただきます。12人のお弟子たちは、イエス様の福音を聞きました。そして信じました。彼らが変わられ、そしてこの弟子たちが天の国をつくりあげていくパン種のように、接する方々に福音が伝えられていきました。あなたの今週の一週間もそのようになります。自分自身の思いや言葉や行いは、罪と欲に満ちています。これを自分でよいものに変えることはだれにもできません。しかし、洗礼によって神様はイエス様とあなたをひとつにしてくださいました。イエス様によってあなたのどうすることもできない根深い罪の性質を洗い清めてくださいました。そしてそのかわりにイエス様のもっておられる温かいすっきりした心をお与えくださいました。あなたは福音のパン種をいただいています。パン種が豊かでふっくらした天の国をあなたの暮らしをとおして作り上げていただきます。

44 節からのたとえによって、私たちがそんな福音を私たちはどれくらい価値あるものとしているか、問われています。

畑に宝が隠されている、ということは当時よく聞くことだったようです。宝物を土に埋めていました。しかし、埋めたことが忘れ去られる事態も起こってきました。その宝のありかを知ったら、全財産を売り払っても手に入りたい、と人は思うものです。真珠商の人ならよい真珠をみつけたら、全財産を売り払っても手に入りたいと思うでしょう。あなたがイエス様によっていただいている神の国、天の国は、それほど価値あるものです。あなたの全生涯、全財産、あなたのすべてをもって、この福音を手に入れたくなるような大きな価値があります。

でも、イエス様はそれをあなたに無代価で、ただで、あなたのためにお与えくださいます。それはあなたが神様の目に高価で尊い存在であるからです。神様から離れてしまったあなたを、神様は御子イエス様をお与えになるほどに愛してくださいています。あなたがイエス様によって永遠のいのちを受け取り、神様とともに歩んで、人々を豊かにしていくためです。

人として、正しく歩むことはどんなことか、神様はみ言葉によって詳しく教えてくださいます。でも、生まれながらの私たちは人々の役に立って歩むことよりも、傷つけられないように身を守り、出し抜かれられないように人を疑い、人を傷つけても忘れてしまい、神様からいただきたい

のちを自分中心に生きてしまいます。自分も人も幸せになりません。そしてそのような自分を誰も変えることができません。

天の国は、神様の愛とただしさのあふれるところです。イエス様はこの天の国を私たちに与えるために来てくださいました。御国を来たらせてください、と私たちが祈るのは、イエス様が主として、王様として私たちを導いてくださるように、と祈っている祈りです。イエス様は私たちのために愛と真実にあふれて生きてくださり、私たちの罪を赦すために身代わりになって十字架で死んでくださって、私たちが当然受けなければならぬ罪の罰を受けてくださいました。それだけではなく、私たちのためによみがえってくださって、再生のいのち、あたらしい命を私たちにくださって、神様の御心を喜んで生きるものにしてくださるのです。

天の国が私たちのところに来てください、わたしのところに来てください、と主の祈りで祈っているのです。今日も主の祈りを祈り、神の御国が私たちのところ、私のところに来るように、お迎えしましょう。自分で自分を変えられないことを告白し、神様のあわれみに信頼してイエス様を信じて今週も歩んでいきましょう。

よいものと悪いものをより分ける漁師たちのたとえにあるように、やがて世の終わりがきます。この世界に終わりがあり、また私たちのいのちにも終わりの日がきます。神様を信じないで自分中心でわがままに生きてきた人は、そのまま燃え盛る炉の中になげこまれる、と書かれています。泣きわめいて歯ぎしりをして悔しがっても、そこから出てくることはもうできません。本来は私たちもそのような定めになっていたのですが、イエス様によって神様の前に罪赦されて正しい人とされました。私たちには分を超えた光栄なことなのですが、さらに永遠の滅びをまぬかれ、永遠のいのちを生きるようにしていただきます。

お弟子たちはこれらのことを聞いたあと、天の国を学んだ学者だ、と言われました。学者といわれると頭のいいひとのように感じます。いい気持ちになりますが、私たちは神様のみ言葉によって神様のみ旨を知らせていただきました。旧約聖書、新約聖書の律法と福音を、ふさわしく取り出して家族に与えていく一家の主人のように、神様の裁きのただしさと、神様の赦しの真実を知らせていただいた私たちは、その知恵を自分のものだけに独占しないで、今週も人々に教え知らせて歩んでいきましょう。

天の国のたとえを通して、愛と真実に富んでいらっしゃるイエス様は、私たちにあたたかくすっきりした毎日をお約束くださいます。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 280 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 我が身の望みは ただ主にかかれり 主イエスの外(ほか)には 依(よ)るべき方なし
 <繰り返し> 我が君イエスこそ 救いの岩なれ 救いの岩なれ
- 2 風いと激しく 波立つ闇夜も みもとに碇(いかり)を 降ろして安らわん <繰り返し>
- 3 この世の望みの 消えゆくときにも 心は動かじ 御誓(みちか)い頼めば <繰り返し>
- 4 見ぬ世に移りて 見(まみ)ゆるその時 主の義をまといて 御前(みまえ)に立たまし
 <繰り返し> アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の大御神(みかみ)に ときわにたえせず み栄あれ、み栄あれ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン。

後奏